

北九州、土日の中学部活動全廃へ 27 年 9 月 までに 地域クラブ活用

5/23(金) 19:19 配信



北九州市教育委員会は、市立中学校で土日曜日にある部活動を 9 月から段階的に縮小し、2027 年 9 月までに全廃する計画を決めた。

希望する生徒の休日の活動は、市が認定する地域クラブが担う。

中学校の部活動は、少子化と教員の負担軽減の観点から、文化庁やスポーツ庁で地域展開に関して議論されている。市でも有識者の検討が続いていた。

市の計画では、今年 9 月から第 1 土曜日と翌日曜日▽26 年 9 月からは第 1、3 土曜日と翌日曜日▽27 年 9 月からは全土・日曜日祝日――と部活動休止日を段階的に拡大する。

希望する生徒の活動は地域クラブが担う。

平日の部活動は継続する。

→ 一貫性指導が困難、教員顧問と休日指導者の連携が難しく、いざこざが出る可能性がある。

地域クラブは、営利目的でないことや部活動の意義を理解した運営が条件。

指導者には研修を義務づける。

→ 必須事項であり、子供や保護者が安全、安心にできる環境のひとつ。

運動部、文化部どちらも対象で、活動は主に学校施設を利用する。

指導者に支払う報酬など運営費は保護者の負担となる。

→ 保護者の負担軽減は必要、また専任の指導者の存在が厳しくなる。

国が今後示す予定の適正な価格などを参考にガイドラインに明記。

生徒 1 人当たり月 3000 円以下を想定する。

→ 指導者の人件費は少額、かつ遠征費や用具費が別途負担となってくる。

利用する地域クラブは市内全域で選択できる。

市教委は地域クラブ設立に向け、指導者人材バンクを設立。

→ 指導者資格、指導者のガバナンス、子供や保護者のニーズにあった指導者確保が困難。

指導したいと考える教員やスポーツチーム関係者、民間人などを幅広く登録する。

市教委にコーディネーターを 2、3 人配置。

指導者を求める地域クラブと指導したい人の調整など、活動が根付くよう伴走支援する。

→ ここの管理者、運営者の先見性、マネジメント力が重要。

市教委によると、現在、土日も活用している部活動は約 500。

土日の活動が全廃される 27 年 9 月には、300 の地域クラブが設立されることを目指す。

今後、各地域で説明会を順次開催する方針。【山下智恵】

【 参 考 】

中学校の部活動改革 文科相 “家庭の負担目 安 夏ごろにも”

2025 年 5 月 20 日 14 時 46 分

中学校の部活動改革をめぐり、阿部文部科学大臣は、部活動を地域のスポーツクラブなどが担う仕組みを、本格的に導入していく場合、各家庭が支払う負担の目安について、ことしの夏ごろにも示したいという考えを明らかにしました。

少子化や教員の働き方の見直しが課題となる中、中学校の部活動改革を検討している政府の有識者会議は今月、来年度から 6 年間で、部活動を地域のスポーツクラブなどが担う仕組みを、休日は原則すべてで実現し、平日もさらなる改革を進める必要性を打ち出し、費用負担の在り方を国が示すよう提言しました。

阿部文部科学大臣は 20 日の記者会見で「現状の部活動における保護者負担額の水準や『地域移行』に向けた実証事業の実績なども踏まえ、ことしの夏ごろを目途に、金額の目安を示せるよう、速やかに検討を進めていく」と明らかにしました。

また、取り組みの進捗（しんちよく）で地域間格差が生じていることも踏まえ、財政支援や、相談窓口の設置、それにアドバイザーの派遣などを通じ、遅れがある自治体を後押ししていく方針を示しました。